

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部  
中央農業試験場 病虫部 予察診断グループ

小澤 徹

# 2022年 要注意の病害虫

## 秋まき小麦の萎縮病

2021年度に北海道病害虫防除所、道総研農業試験場、各振興局農業改良普及センターなどが実施した病害虫発生予察事業および試験研究の結果から、22年に特に注意を要する病害虫について紹介する。

秋まき小麦の萎縮病は近年発生地域が徐々に拡大する傾向にある。本病は土壌中に生息するポリミキサ・グラミニスという微生物が媒介するウイルス病で、秋季に小麦の根からウイルス

## 連作・輪作を避け適期播種

6月中旬まで症状が認められるのが特徴(佐々木原図)

野菜類の土壌病害 「持ち込まない」を徹底 20〜21年にかけて、これまで北海道で発生していなかった野菜の土壌病害が次々と発生した。

春まき小麦のムギキモグリバエ 時期を逃さず薬剤散布 21年は、上川地方を中心に春まき小麦でムギキモグリバエによる被害が多発した。

スライカ炭腐病を確認 また、21年にはスライカ炭腐病の発生が初めて確認された。本病は収穫直前に株が急激に枯れ上がる病害で、根の表皮が黒変色して見える症状が特徴である。

シヨウカの根茎腐敗病。地際部が水浸状に褐変(小松原図)

カンショの基腐病。根元が黒変して腐敗(長濱原図)



▲赤さび病の病斑。さび色をした斑点をつくる(小澤原図)

## 秋まき小麦の赤さび病

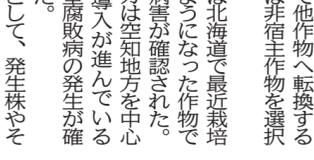
赤さび病は高温多湿の気象条件下で多発しやすく、この21年はオホーツクの一部地域、空知および上川地方で多発した。近年、赤さび病に対する抵抗性が「やや強」である「きたほなみ」で発生が目立っており、抵抗性「弱」品種に準じた防除が必要状況になっている。

## 抵抗性品種も防除を

上位葉に発病が認められてからの防除では十分な効果が得られないため、発病が懸念される圃場では、止葉抽出から穂ばらみ期および開花始め(赤かび病との同時防除が可能)の合計2回の薬剤散布が必要である。

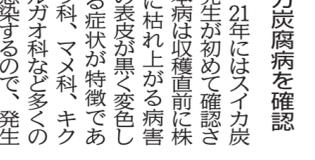
上位葉に発病が認められてからの防除では十分な効果が得られないため、発病が懸念される圃場では、止葉抽出から穂ばらみ期および開花始め(赤かび病との同時防除が可能)の合計2回の薬剤散布が必要である。

## スライカ炭腐病(長濱原図)



細根の表皮内に0.1mm未満の黒点(長濱原図)

## ホモフシス根腐病、メロン(小松原図)



細根に入れ墨様の症状(小澤原図)



幼虫が茎や穂を加害(下間原図)



出すくみ・白穂(下間原図)

総活のすすめ (21) (一社)終活マイライフ 熊崎 梨絵 突然ですが、皆さまは正しい靴の履き方をご存知でしょうか。毎年2月10日を「フットケアの日」と制定し、各地で市民向けセミナーなどが開催されています。

歩きつづけるために① 無意識に「つま先トントン」をしてしまいが、これは間違い！ 足にも靴にもダメージがあります。正しい靴の履き方は「かかとトントン」です。自分の足にピッタリ合った靴で(大きいサイズの靴などはNG)、「かかとトントン」して、靴ひもやマジックテープでキュッと締めてください。固定されることで、足が前後に動いたりすることがなくなりま